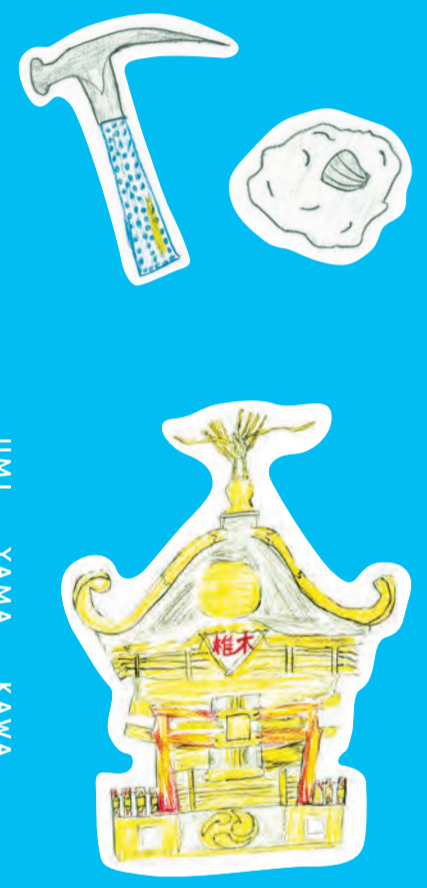
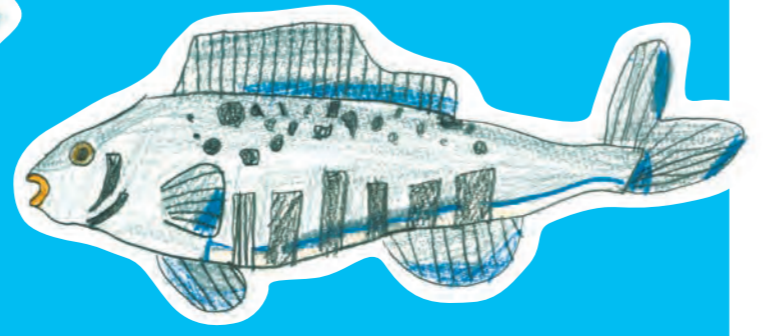
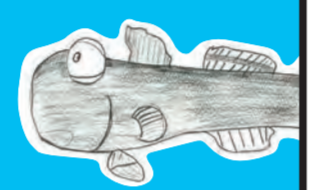


# うみやまかわ新聞

うみやまかわ新聞は  
 日本をつなぐ「海」「山」「川」を  
 キーワードにした新聞です  
 全国の小学生が  
 それぞれの地域を取材しました  
 さまざまなうみ・やま・かわと  
 身近なうみ・やま・かわを比べ  
 広い海に浮かぶ島国の恵みや  
 同じ日本にある地域の  
 「つながり」や「ちがい」を  
 感じてください



UMI  
YAMA  
KAWA



2016年度



www.umiyamakawashinbun.net

やってみよう!

## 『うみやまかわ新聞』を読んで イメージしましょう

各地の『うみやまかわ新聞』を見比べながら  
海と島でできた日本や自分が暮らす地域についてイメージしてみましょう

Q どんなところに自分が暮らす地域との「ちがい」を感じた?

Q どんなところに自分が暮らす地域との「つながり」を感じた?

Q 自分が暮らす地域にある自慢したい「うみ」「やま」「かわ」は?

## 『うみやまかわ新聞』をつくってみませんか?

『うみやまかわ新聞』は小学校高学年向けの総合学習プログラムです。  
 「うみ」「やま」「かわ」をテーマに、  
 自らが暮らす地域を学び、知り、考え、深め、伝える力を養い、  
 地域の未来を担う子どもたちの郷土愛を育む、  
 アクティブ・ラーニングのモデルカリキュラムです。  
 詳しくは『うみやまかわ新聞』公式サイトをご覧ください。

<http://www.umiyamakawashinbun.net>

『うみやまかわ新聞』  
 発行：特定非営利活動法人離島経済新聞社  
 東京都世田谷区三軒茶屋2-49-6  
<http://www.ritokei.org/>  
 発行日：2017年2月6日  
 印刷：朝日プリンテック  
 協力：公益財団法人日本財団

【お問い合わせ先】  
 umiyamakawa@ritokei.com

離島経済新聞社



当プロジェクトは「島を知ること日本を知ること」を  
 コンセプトに活動するNPO法人離島経済新聞社と、  
 日本財団の共同事業として実施しています。

私たちが暮らす日本は

広い海とたくさん島の島できていて

一つひとつの地域に特徴的な自然や歴史、文化があります

『うみやまかわ新聞』は新聞づくりを通して

海と島でできた日本を学ぶプロジェクトです

2016年度は北海道から沖縄まで、

全国14地域に暮らす小学生たちが

「うみ」「やま」「かわ」を軸に地域取材し

それぞれの魅力を伝える新聞づくりに挑戦しました

完成した新聞を広げてイメージしてみましよう

この島国にはどんな恵みがあり、つながりがあるのか

各地の「うみ」「やま」「かわ」には

まだ知らない、たくさん魅力が詰まっています

【木曾町／長野県】

うみやまかわ新聞編集部木曾町支局



長野県西部に位置する木曾町は、2005年(平成17年)の合併から12年になります。県内の町村では最も広い面積で、木曾川や溪流の流れと共に育まれてきた地域です。有志の小学生4名で取り組んだ新聞には、未来の木曾の子ども達につなぎ、守り続けてほしい町の宝物が詰め込まれています。

地域コーディネーター：都竹亜耶(つづく・あや)



未来の子ども達に伝え、守り続けてほしいという願いを込めて作った新聞は、その体験も含めて、かけがえのない宝物。暑い日も寒い日もよくがんばりました。

地域コーディネーター：榎本浩実(えのもと・ひろみ)



新聞作りの時に積極的に意見を出してくれて、とても嬉しかったです。木曾の魅力がいっぱい詰まった素敵な新聞ができあがりましたね。お疲れ様でした！

【いすみ市／千葉県】

いすみ市立太東小学校



千葉県いすみ市は房総半島の太平洋側にあります。海が近く、東京オリンピックでサーフィンの開催地となっています。6年生は35名で、明るく元気に生活しています。新聞を読んで、いすみ市の魅力を皆さんに知ってもらえたらうれしいです。

地域コーディネーター：磯木淳寛(いそき・あつひろ)



遊んでいたかと思うといつの間にか原稿を書き終えていて、しかも上手で驚かされました。取材の時の物おじしない姿勢と集中力にも感心しました。さらなる成長が楽しみです。1年間お疲れ様でした。ありがとう。また近所で会いましょう。

【利尻島／北海道】

利尻町青少年リーダーの会「若葉」



利尻島は、アイヌ語で「リイシリ」(=高い山のある島)に由来しており、利尻富士と呼ばれる秀麗な利尻山(標高1,721m)が中央にそびえています。うみやまかわ新聞の活動は、利尻町青少年リーダーの会「若葉」の小学校6年生を中心に17名で取り組みました。

地域コーディネーター：高橋哲也(たかはし・てつや)



1年間、6年生が下級生を取りまとめながら、長い時間は1日6時間以上、新聞に関する学習や取材を行いながら「うみやまかわ新聞」を作成してきました。大変だったと思いますが、新しい利尻の発見と郷土愛を深めることができたと思います。

【北杜市／山梨県】

うみやまかわ新聞編集部北杜市支局



北杜市は東京から車や電車で約2時間、八ヶ岳や南アルプスの麓にある山々に囲まれた地域です。市内の11の小学校から、新聞作りに興味をもった10名(男子2名、女子8名)で取り組み、北杜のフレーズである「山紫水明」のそれぞれに沿って新聞作りを進めました。

地域コーディネーター：篠鉄平(しの・てっぺい)



北杜市子ども記者の皆さん、1年間お疲れ様でした！毎月のテレビ授業や、取材、原稿作りに熱心に取り組む姿、見事な新聞ができあがりました。私も皆さんが取り組む姿勢を見て、驚きや学びを得る事ができました。協力して下さった保護者の皆様、本当にどうもありがとうございました！

【江戸川区／東京都】

江戸川区立二之江第三小学校

6年1組



6年2組



学区域の中心に歴史あふれる新川が流れ、江戸川に隣接した、静かな住宅街という落ち着いた環境の中にあります。一人ひとりの健やかな成長のために「明るく、元気で、さわやかな学校づくり」に取り組んでいます。うみやまかわ新聞作りは6年1組・2組がそれぞれ取り組みました。

地域コーディネーター：宮嶋隆行(みやじま・たかゆき)



<6年1組>1年間ご苦労様でした。取材を通じて、葛西を住みやすい町にするために、様々な人が努力されている事がわかったと思います。また、他の人達にまかせているだけでは住みやすさは守れない事も理解できたと思います。これからは、皆さん自身が町をより良くするよう、がんばってください。

<6年2組>1年間お疲れ様でした。「人に親切にしよう」と言う事は簡単です。ですが、実際に住む人や施設に関わる人に取材する事で、「人に親切である事」がどうい事がよく理解できたのではないのでしょうか。これからも自分が住む町をより良くするように、その気持ちを忘れずにいてください。

【上島町／愛媛県】  
上島町立弓削小学校



弓削小学校は、愛媛県の最北で、広島県境に接する島にあります。校区は、瀬戸内の豊かな漁場と美しい自然という、恵まれた環境の中、児童は素直で純朴に育っています。6年生は、大変明るく元気のあるクラス。目標達成のためにこつこつと努力を積み重ねていく事もでき、チーム一丸で新聞を作成しました。

地域コーディネーター：藤巻光加(ふじまき・みつか)



みんながんばりましたね！ありがとうございます。みんなが大人になる頃、上島町の人口はたぶん今よりもずっと少なくなっています。けれど今回学んだように、上島町には守り伝えていきたい事がたくさんあります。知り、書き、伝え残していく事。この経験が、みんなと島の未来にとって、光あるものでありますように。

【真庭市／岡山県】  
真庭市立落合小学校



真庭市の南部、旭川と備中川の合流点に広がる落合平野に位置している、全校181名の小学校。うみやまかわ新聞では、6年生30名が今ある落合の魅力を発信するのではなく、将来の町がどうすればより良くなるかという視点で新聞作りに取り組みました。

地域コーディネーター：西本恭子(にしもと・きょうこ)



新聞のテーマにある、落合の未来につながり、今の6年生にしか作れない新聞がついに完成しましたね。新聞を作る前より町の事が気になるようになったのではないのでしょうか。新聞をみんなで作った事、みんなの人生の下地には落合が必ずある事を時々思い出してくれたらうれしいなと思います。

【近江八幡市沖島／滋賀県】  
近江八幡市立沖島小学校



沖島小学校は、琵琶湖に浮かぶ人口約300人の沖島にあります。全校児童は15名。運動会や遠泳大会、ふなずし作りなどの学習活動は地域の方々の協力なしに進める事はできません。うみやまかわ新聞作りは、3年生以上の9名で取り組みました。

地域コーディネーター：富田雅美(とみた・まさみ)



3～6年生で取り組み、中学年は講師の話をしっかり聞き、積極的に質問をし、高学年は上手にまとめ、みんなを引っ張る事ができ、それぞれの役割を果たされていました。この授業は沖島の暮らしなどを知る良い機会で、沖島在住の私も色々な事を教えてもらい、参加できて良かったです。

【日田市津江地域／大分県】  
日田市立津江小学校



上津江町と中津江村を校区としている、山や森林に囲まれた小学校です。6年生10名は、「全力・努力・協力」を学級目標に、お互いの違いや良さも大切にしながら、仲良く過ごしています。日々当たり前のよう過ぎているふるさと、今回の取材を通してたくさんの宝物がある事に気付きました。

地域コーディネーター：河井昌猛(かわい・まさたか)



駆け足で新聞の作り方を学び、限られた取材時間や原稿作成時間でしたが、しっかりと要点を押さえて記事を上げる事ができたと思います。新聞作りを通して、生まれ育った地域に関心を持ってもらえた事と、子ども達の成長を見られた事がとてもうれしかったです。

【対馬市／長崎県】  
対馬市立豊小学校



対馬の最北端で、全国でも大陸に最も近い学校です。全校児童は23人で、新聞作りは5・6年生、8名で取り組みました。地域のソウルフードを意味する「とんちゃん」チームと、校歌にも詠われ歴史を物語る「瑞雲」チームに分かれて「韓国との交流」をキーワードにアンケート調査から取り組みました。

地域コーディネーター：細井尚美(ほせい・なおみ)



私自身、島外からの移住者のため、表面的に知っていた事も、児童と一緒に調べたり取材を通して深く知る事ができました。8名の児童達は、授業が始まるとはっきりと自分の意見を発表できて、頼もしい限り。集中して積極的に取り組んでくれて、対馬の事を全国の方々に知ってもらい良い新聞ができたと思います。

【佐川町／高知県】  
佐川町立尾川小中学校



土佐の美しい山里にある全校57名の小中一貫校。時には喧嘩をする事もあるけれど、いつも学年男女関係なく一緒に遊んでいる仲良しです。1年間かけて、大好きな尾川について楽しく学び、5・6年生合同で3チームに分かれて、6年生が上手にリードして原稿を書き上げる事ができました。

地域コーディネーター：川合里奈(かわい・りな)



うみやまかわ新聞は2年目となった尾川小中学校。6年生は、授業では5年生を上手にリードしてくれました。5年生は初めての新聞作り。しかもお兄さんお姉さん達と同じ学習で大変だったかもしれませんが、楽しくがんばってくれました。皆さんのお陰で私も楽しくお手伝いできました。お疲れ様でした！

【うるま市津堅島／沖縄県】  
うるま市立津堅幼・小・中学校



私達の学校は、沖縄本島の中部、勝連半島の沖合に浮かぶ津堅島にあります。幼稚園・小学校・中学校合わせて24名の小さな学校です。自慢は、全員仲が良く、3年生以上は三線が弾ける事です。ハーリー大会や海洋体験、追い込み漁、サバニで島周りなど、楽しい行事がいっぱいです。

地域コーディネーター：喜久川望(きくがわ・のぞみ)



あっという間の1年でした！！初めての地域コーディネーターでしたが、先輩(昨年度からの継続児童さん(\*\_\*))のリードと石嶺先生の指導のおかげでここまで来れました。タイトなスケジュールの中、いつも笑顔でがんばってくれた皆さんに感謝です！！ありがとうございます！！お疲れ様でした！

【和泊町沖永良部島／鹿児島県】  
和泊町立大城小学校



和泊町立大城小学校は、鹿児島から南へ約500km離れた沖永良部島にあります。全校児童47名と少人数ではありますが、学年分け隔てなく仲良く元気に学校生活を送っています。その中で、今回、6年生10名がうみやまかわ新聞作りに取り組みました。

地域コーディネーター：古村英次郎(ふるむら・えいじろう)



1年間、新聞作りをしてきて、本当に楽しくがんばってくれたと思います。たくさんの言葉を取材でいただき、限られた文字数でまとめる作業をやりぬいた姿はとても頼もしく見えました。郷土を知り、興味を持ち将来の島を背負う人材になる事を願っています。本当によくがんばりました。感謝！

【屋久島町口永良部島／鹿児島県】  
屋久島町立金岳小学校



金岳小学校は、口永良部島にある唯一の小学校で、全校児童4名のとても小さい学校です。新聞作りでは、6年生と4年生の3名が中心になって行いました。2年生もイラスト作成に参加し、みんなが一丸となって口永良部島の魅力を伝えようとがんばりました。

地域コーディネーター：貴船恭子(きぶね・きょうこ)



口永良部島は2015年(平成27年)に大きな噴火があり、7ヶ月の島外避難後に帰島しました。「元通りの生活」へ向け忙しかけている大人達を見ながら子ども達も自分達ができる事をこの新聞作りを感じたと思います。紙面を通じて「私達はこの口永良部島で元気にがんばっているよ」と伝えられれば幸いです。

北海道利尻町利尻島版  
 テーマ：利尻のひみつ  
 制作：利尻町青少年リーダーの会「若葉」(小学校4〜6年生)



# 利尻の有名な海産物

利尻島を代表するこんぶやウニ、にしんなどの海産物について、紹介します。



利尻島は海産物が豊富な島です。その中でも、こんぶが有名です。利尻こんぶは、島の漁師さんが朝早くに漁に出てとったこんぶを、朝5時くらいから干します。午後3時くらいまで干した後、こんぶを手作業で集めていきます。利尻こんぶは昔から、細く切っておやつとして食べたり、みそしるのダシに使ったりしています。夜、ねる前にこんぶを水につけて、翌朝、そのダシのみそしるを作ります。また、こんぶは食べるだけではなく、するめ・ゆずの葉・みかん・松の葉・半紙などと一緒にしめなわに付けて家のげん関にかざることもあるそうです。

こんぶの他にも、利尻でとれるウニは観光客に人気で、島内のほとんどのお店でウニを使った料理を出しています。ウニもこんぶと

取材協力 西谷榮治(にしや・えいじ)さん(62才) 北海道利尻町出身、利尻島歴史研究者。

同じく、朝、漁に出てとり、昼までにはとってきたウニのからを全て手作業でむきます。また、昔は、3月から5月いっぱいまで、縦あみ漁でにしん漁をしていましたが、今はしていません。にしんがたくさんとれていた時は、利尻の人だけでなく、青森県や秋田県などから島に働きに来る人が多くいて、たくさんの人でとてもにぎわっていました。とれたにしんは、かずのこを取り、つけ物やそばに入れて食べていました。残った部分は、肥料として日常生活でも使われていました。みなさんも、ぜひ利尻に来て、にしんのことを学んだりウニやこんぶを食べたりしてみてください。

# 利尻の花について

利尻島の特ちょう的な花や植物について紹介します。



利尻島にはたくさん植物があり、この島でしか咲かない花も4種類あります。それは、リシリヒナゲシとリシリアザミ、ボタンキンバイ、リシリハタザオです。リシリヒナゲシは島の中央にある利尻山の9合目付近の岩地で7月初旬〜中旬に咲きます。利尻島南部の海岸に育つリシリアザミは、8月中旬〜下旬に咲きます。ボタンキンバイは7月上旬〜中旬、リシリハタザオは7月〜8月にそれぞれ開花します。中でもリシリヒナゲシとリシリハタザオは、かん境省レッドデータの絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されています。その

他にも、利尻島には「リシリ」と名の付く植物が15種類もあります。利尻島は北緯45度に位置しており、日本の中では高緯度なので、本州だと2000メートルぐらいの山でしか見られない花が、利尻島では1000メートルぐらいで見ることが出来ます。そのため、利尻島では本州に比べて簡単に貴重な花を見ることができ、それを目当てに島に来る人もいます。ぜひみなさんも利尻に来て、色々な花を見てみてください。



# 水のない利尻の川

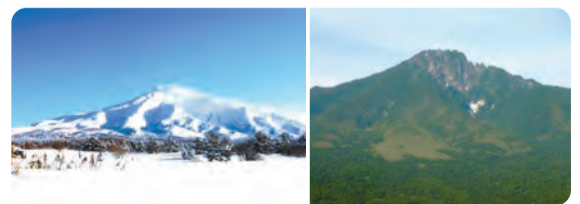


利尻島には川が全部で57個あります。ほとんどの川は水が流れていないため、「から川」と呼ばれています。しかし、雨が降ると山に降った雨水が流れ始めます。2016年(平成28年)9月6日、50年に一度の記録的な大雨が降り、利尻町と利尻富士町の全域に避難かん告が出されました。利尻町ではいろんな所で土砂くずれが発生し、町内の道路が全線通行止めという放送が流れました。でも山と海が近かったので、降った雨が川を通じて、海に流れて大きな災害にはなりませんでした。

取材協力 北島政幸(きたじま・まさゆき)さん(41才) 利尻町役場まち環境整備課上下水道係長

# 万年雪を知っていますか?

利尻山にある万年雪について紹介します。



利尻島の中心には利尻山があります。利尻山の中心には、万年雪という不思議な雪があります。万年雪は一年を通して残っている雪のことです。利尻山の南側の尾根にあります。利尻山の標高500メートル付近まで車で移動し、そこから歩いて20分ぐらいの場所で見ることが出来ます。大きな谷にあり、ハイキングを楽しみながら行くことができます。なぜ万年雪ができるかというと、島の西側にある海から風がとんでも強く、島の東側に雪がたくさん飛ばされて、利尻山の尾根に雪がたまるからです。利尻山の万年雪は本州の山にあるものに比べて、簡単に見に行くことができるので、観光スポットにもなっています。万年雪を見に行く人の中には、かき氷のシロップを持参して万年雪をかき氷にして食べる人もいます。ぜひ、みなさんも来てみてください。

取材協力 北島政幸(きたじま・まさゆき)さん(41才) 利尻町役場まち環境整備課上下水道係長

利尻島の水道水はこの麗峰湧水と同じ水源で作られた井戸からくみ上げています。井戸の深さは約60メートルあり、くみ上げた水を各家庭へ送っています。その水道管の全長は利尻町全体で5万4000メートルもあります。利尻町の水道水はとてもおいしいです。



利尻の水のひみつ

# 千葉県いすみ市版

テーマ：明るい未来を築くいすみ市  
制作：いすみ市立太東小学校6年生



アカウミガメの赤ちゃんは、卵からふ化しても、そのほとんどが鳥やカニ、魚などに食べられ、100個産卵しても数ひきほどしか生きられません。いすみ市の浜にもアカウミガメが上陸して産卵をします。

## アカウミガメの一生



アカウミガメはいすみ市の浜に産卵しに來ます。いすみ市の特産品であるカニやエビ、貝などがアカウミガメのえきになるので、この場所に産卵をしに來るそうです。アカウミガメはアメリカから沖縄、九州、四国、そしていすみ市にも上陸して産卵をします。日本に初めてアカウミガメが産卵しに來たのは、とてもとても大昔、日本にまだ人間がいなかったころです。



アカウミガメの産卵は次のように行われています。まず、海から真つすぐ浜に上がっていき、砂に身体をうめて穴をほります。50センチメートルもほることもあるそうです。穴をほるとピンポン球くらいの大きさの卵を100〜140個産みます。産み終わるとそこに砂をかぶせて、親は海に真つすぐ帰ります。

その後、約2カ月でアカウミガメの赤ちゃんが産まれます。赤ちゃんは産まれると真つすぐ海に帰ります。でも、大きくなるまでには鳥やカニ、魚などたくさん敵が待っています。多くのぎせいの中で数ひきだけ生き残るのがウミガメの世界なのです。そんな親ガメと子ガメは海の中でぐう然うかもしれません。しかし、アカウミガメ達はおたがいが親子なのかわかりません。アカウミガメは家族を知らずに生きていくのです。人間ではありえないことがアカウミガメ達にとって普通のことなのです。そんなアカウミガメのために私達ができることは、アカウミガメの産卵のじやまをしないうこと。それが家族のいる私達にとって一番できることじゃないかと思っています。

## 海の中の生き物を支えるカジメ



いすみ市の沿岸では「カジメ」という海そうが減少しています。その原因について紹介します。

カジメは、水深5〜20メートルくらいの水がきれいな場所に住んでいる海そうで、コンブの仲間です。体長は約2メートルになり、寿命は長いもので5年になります。カジメには、光合成をして酸素を作る他、海中の養分を吸収して赤潮を防ぐなど、海をきれいにしてくれる役割があります。取材をした海の博物館の菊地則雄さんによると、いすみ市沿岸はカジメがたくさん

いる日本有数の場所だそうですが、最近では減少傾向にあります。なぜ、カジメは減少しているのでしょうか。それは海水が暖かくなってカジメをはじめとした海そうが弱ったり、ウニや魚などが海そうを食べてしまいういそ焼けと呼ばれる現象などが原因です。いすみ市をふくむ房総半島などでは、カジメが住みやすい魚礁ブロックを海に入れたり、いそ焼けの原因となるウニをとったりしてカジメを守る取り組みをしています。人間にとっても魚にとっても、カジメを守っていくことは重要なことです。

取材協力 菊地則雄(きくちのりお)さん(48才) 千葉県立中央博物館分館海の博物館



## 葛飾北斎にえいきょうをあたたえた波の伊八



波の伊八は鴨川市の船職人の家に生まれ、本名を志伊八郎信由(しはいはちろうのぶよし)といいます。まじめで物事を計画的に考える性格でした。伊八は父のえいきょうを受けて彫刻を始め、波の彫刻を得意としました。千葉県いすみ市にある飯縄寺

いすみ市に彫刻を残した波の伊八。伊八はどんな人だったのか、いすみ市にある飯縄寺へ取材に行きました。

には伊八がほった波の彫刻があります。その彫刻をよく見ると、左の方の波はおだやかで右の方の波はあらあらしく、まるで本物の波を見ているようです。波の伊八の彫刻は、特に北斎の「神奈川沖浪裏」と構図が似ています。ぜひ波の伊八のすばらしい彫刻を見に来てください。

取材協力 村田浩田(むらたこうでん)さん(64才) 飯縄寺二十九世住職

## 長年続く上総十二社祭り

807年(大同2年)から続く「上総十二社祭り」について紹介します。

上総十二社祭りは、いすみ市岬町椎木地区にある玉崎神社が創建された807年(大同2年)に始まりました。毎年9月に行われるこの祭りは、『古事記』に出てくる豊玉姫命の子と玉依姫命から産まれた天武天皇の家族が、年に一度集まることに由来したお祭りです。見どころは、玉依姫命一族が釣ヶ崎海岸に上陸したことから始まった例祭と、帰ってきたみこしが釣ヶ



取材協力 永野利臣(ながのとしおみ)さん(55才) 千葉県いすみ市中原区・区長

## いすみ鉄道と菜の花



いすみ鉄道の列車にはムーミンの絵が描かれていて、鉄道を利用する乗客の心を和ませています。

いすみ鉄道は、千葉県大多喜町の上総中野駅から千葉県いすみ市の大原駅を結んでいます。いすみ鉄道の車体には黄色、緑色、青色の3色が使われていて、黄色は菜の花、緑色は山、青色は海を表しています。列車にはムーミンが描

取材協力 吉野裕一郎(よしのゆういちろう)さん(58才) いすみ鉄道株式会社・鉄道部長

取材協力 長谷川俊則(はせがわとしのり)さん(61才) いすみ鉄道株式会社・総務部長

# 東京都江戸川区葛西地区版

テーマ：ごみを減らしてバリアフリーの進んだ町に  
制作：江戸川区立二之江第三小学校6年1組

葛西臨海公園には、体の不自由な方でも利用できる「だれでもトイレ」や、車いすの方でも通りやすくするためのスロープなど、バリアフリーの工夫があります。

## 葛西臨海公園のバリアフリー、工夫の数々



東京都江戸川区にある葛西臨海公園には、車いすの方でも通りやすいように設置されているスロープや、体の不自由な方でも利用できる「だれでもトイレ」など、さまざまなバリアフリーの工夫があります。

葛西臨海公園では公園の管理事務所が行うスイカの育成体験など、幼ち園生向けのイベントや、水仙祭りという熟年者向けのイベントなどさまざまなイベントがあります。他にも、民間団体が開催するイベントもあり、「葛西臨海たんけん隊」では、障がいのある方のためのプログラムを行っています。公園内のゴミは、ボランティアの方などが清そうしてくれているおかげで年々減ってきています。

葛西臨海公園内にある葛西臨海水族園にも工夫がありました。葛西臨海水族園ではたくさんのお魚が展示されていますが、展示されている魚の2、3倍もの魚を飼育しているのです。いつも元気な魚を展示することができません。また、良い姿を保つために、スパーで売られているより新鮮なえさをあたえることもあります。葛西臨海水族園に展示している魚の一部には東京湾の生き物もいます。東京湾には貝、かに、えび、やどかり、いか、たこ、くらげ、サメなどたくさん生き物が生息しています。



葛西臨海公園(二之江第三小学校の児童が葛西臨海公園で生きもの勉強をしているところ。向こうに見えるのは東京ディズニーランド。)



取材協力 風呂田利夫(ふうた・としむ)さん(69才) 東邦大学名誉教授



取材協力 宮嶋隆行(みやじま・たかゆき)さん(51才) 一般社団法人葛西臨海・環境教育フォーラム・理事

取材協力 金内敬之(かなうち・たかゆき)さん(39才) 葛西臨海公園サービスセンター

私達は、東京都江戸川区葛西地区を流れる新川の楽しみ方や工夫について紹介します。

## 全国に広めよう！バリアフリー

### 新川の楽しみ方について

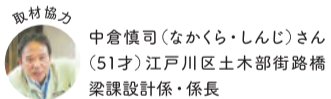
新川には718本の桜が植えられている遊歩道があり、「新川千本桜」と呼ばれています。そこを歩くと桜を楽しむことができます。また、火の見やぐらという建物からは新川を一望できます。



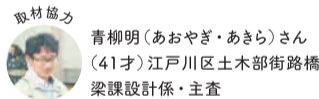
中倉さんと青柳さんに新川千本桜計画について教えていただきました。

### 新川の橋のバリアフリーや工夫

橋に段差があると熟年者などが転んでしまう危険があるので、なるべく段差をなくすようにしています。また、スロープのはばは2メートルあり、車いす同士がぶつからずに通れるようになっています。このような決まりに基づいて橋を造っています。



取材協力 中倉慎司(なかくら・しんじ)さん(51才) 江戸川区土木部街路橋梁課設計係・係長



取材協力 青柳明(あおやぎ・あきら)さん(41才) 江戸川区土木部街路橋梁課設計係・主査



上：希望の家のスロープ。車いすの方や歩くのが大変な方が利用しています。下：希望の家にあった二段の手すり。持ちやすく、背の高さに合わせているのが特徴です。

大島秀雄(おおしま・ひでお)さん(40才) 江戸川区福祉部介護保険課事業者調整係  
山野辺健(やまのべ・たけし)さん(42才) 江戸川区福祉部福祉推進課庶務係  
山脇隆寛(やまわき・たかひろ)さん(47才) 江戸川区福祉部障害者福祉課事業者調整係

## 思いやりをもってもらうには？

葛西地区にあるかい護施設や障がい者施設での過ごし方について紹介いたします。葛西地区にあるかい護施設では、かい護予防のためのトレーニングや芸術活動、カラオケなどをしています。体が思うように動かない方や、熟年者の方が通う「デイサービス(通所かい護)」では、施設によって設備がちがいがり、食事を中心としている施設や、運動・歩く練習を行うため、ジムのようによく歩く器具がある施設などさまざまです。続いて、障がい者施設について紹介いたします。私達が通う二之江第三小学校の近くには「希望の家」という障がい者施設があります。そこではネジの部品を分ける仕事、はしを袋に入れる仕事などを行っています。

最後に私達からお願いがあります。それは、「どんな方にも思いやりをもつて過ごしてほしい」ということです。みなさんもハンディキャップを持っている方やみなさんと同じような生活を送れない方にも友達のように接してください。

## 今も昔も支えてくれた川

東京都江戸川区葛西地区の人々の暮らしを支えてきた川の一つ、新川の歴史について取材をしました。



新川は江戸時代に徳川家康によって造られた人工の川です。新川が完成すると川の周りに家が建てられ、新川の水を使って生活をしていました。

1949年(昭和24年)、キティ台風が関東地方に上陸し、江戸川区でも被害がありました。それをきっかけに、川の水があふれるのを防ぐために、堤防を造りました。現在では、川と人とがふれ合える心もかん境も美しくなる

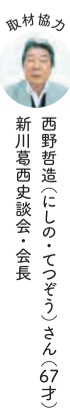
## ボランティア

東京都江戸川区葛西地区で暮らす私達にとってなじみのある「新川」。今と昔のゴミについて新川でボランティア活動をしている「新川げんき会」に取材に行きました。

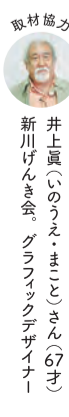
江戸川区を流れる新川は今から約400年前に徳川家康が造らせた人工の川です。新川の周辺は元々田んぼでしたが、新川が完成すると川の近くに家が建てられ始めました。当時は水道、ガス、電気などはなく、川の水を使って米や野菜を作っていました。近年になると、工場は水などが原因で川がきたなくなっていました。1976年(昭和51年)、新川をきれいにしようとゴミ拾いのボランティアが始まりました。そこでできたのが「新川げんき会」です。新川げんき会がゴミ拾いボランティア

るように水位を下げ、それにともない防を低くしました。そして、桜を植え、ゴミ拾いをして新川を守っています。この新川の護岸に植えられた桜は「新川千本桜」と言われています。

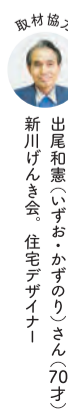
新川は人々の暮らしを支え、人々に感謝し、川を守ろうとゴミ拾いやボランティアなどを行っていることが分かりました。ぼく達もこの新川を守っていきたいです。



取材協力 西野哲造(にしのだ・てつぞう)さん(67才) 新川葛西史談会・会長



取材協力 井上眞(いのうえ・まこと)さん(67才) 新川げんき会、グラフィックデザイナー



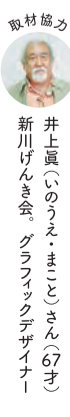
取材協力 出根和憲(いずみわ・かずのり)さん(70才) 新川げんき会、住宅デザイナー



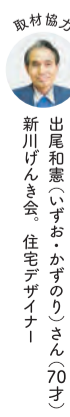
アを始めたのは、葛西に暮らす人とコミュニケーションをとる、住みやすい町にしたいという思いからです。

新川げんき会の人たちは新川をいろいろな人たちに見てもらいたいという気持ちで活動しています。

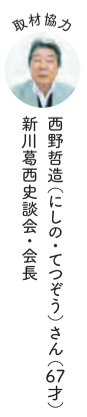
ゴミ拾いボランティアの活動のおかげで景観がきれいになり、昔と比べてゴミの量は減っています。が、空きかんや弁当の空箱などのゴミはまだあります。これからも、もっときれいな川になると良いと思います。



取材協力 井上眞(いのうえ・まこと)さん(67才) 新川げんき会、グラフィックデザイナー



取材協力 出根和憲(いずみわ・かずのり)さん(70才) 新川げんき会、住宅デザイナー



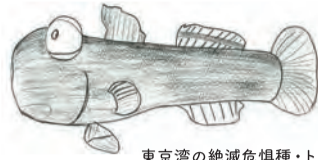
取材協力 西野哲造(にしのだ・てつぞう)さん(67才) 新川葛西史談会・会長



東京湾の西千島

たくさんの魚がいる「東京湾」の魚の種類や取り組みについて、海の生き物に詳しい風呂田利夫さんにお話を聞きました。

# 東京湾の自然



東京湾の絶滅危惧種・トビハゼ

東京都江戸川区葛西地区版  
テーマ：人に親切なまち  
制作：江戸川区立二之江第三小学校6年2組



取材協力 風呂田利夫(ふうた・としおさん69才) 東邦大学名誉教授

東京湾は湾の入り口がせまく、多くの川が流れこむため、相模湾や伊豆半島、外房の海岸など淡水のえいきよが海に比べて3分の2くらい塩分濃度です。塩分が少ないので、河口の生き物が多くいて、東京湾に葛西臨海公園を造る時には、普通の海よりめずらしい生き物がたくさんいたそうです。

江戸時代のころから、東京湾のあたりは「江戸前」ともいわれ、昭和時代までは天然のハマグリがいたそうです。今は天然のハマグリは生息していませんが、別の場所から持ってきたハマグリが生息しています。ハマグリ以外にも、ボラやハゼ、マハゼなどの魚、ヤマトシジミや、アサリなどの貝、甲殻類、ゴカイ、サメなど色々な生き物が生息しています。ハゼは30種類くらいいるとおどろきですが、このサメは人をおそわないそうです。

東京湾は、江戸時代のころは「食料をつくる海」と呼ばれていたのですが、今では信じられない話です。葛西臨海公園を始め、近くにあるなぎさは、たくさん親子連れが遊べる場所になっています。

## お年寄りと障がいのある人をお助け。福祉施設

東京都江戸川区には、約150の福祉施設があります。その中で、福祉施設の「ケアラウンジキョウエイ」と「希望の家」に行き、話をお聞きしました。



左：障がいのある人が組み立てた消しゴム。右：ボランティアでケアラウンジキョウエイにいる熟年者と遊びました。

江戸川区には小学校が71校に対して熟年者のためのデイサービスが約150カ所もあります。小学校の2倍以上の福祉施設があり、熟年者に優しい町になっています。私達が通う二之江第三小学校の前にはデイサービス(通所かい護)施設の「ケアラ

ウンジキョウエイ」があり、そこへ見学とボランティアに行きました。ケアラウンジキョウエイは利用者が83名いるそうです。毎月行事があり、11月は「いも煮会」を行い、みんなで里いもを煮て楽しく食べたそうです。このように、熟年者の人達は毎日楽しく過ごしています。障がい者支えん施設の「希望の家」にも行きました。希望の家ではお仕事をしている人やリハビリ、創作活動をしている人がいました。私達が見学した時は、ボルトとナットをセットにする仕事をしていました。その他にも、割りばし入れやおもちゃの消しゴムの組み立てなどを行っているそうです。



取材協力 寺澤宣通(てらさわ・のぶみちさん45才) 希望の家 所長



取材協力 吉田達則(よしだ・たつゆりさん32才) ケアラウンジキョウエイ 施設長

このように熟年者や障がいのある人も楽しく暮らせる町になっています。

新川地下駐車場は、東京都江戸川区が経営している公共の駐車場で、みんなが便利になるよう造られています。



新川地下駐車場の入り口。いつもたくさんの車が入ります。

## 安全性を考える 地下駐車場

東京都江戸川区を流れる新川の地下には、新川地下駐車場があります。1995年(平成7年)に着工し、4年間をかけた1999年(平成11年)6月にオープンしました。特ちょうは、民間の駐車場でなく江戸川区が運営している公共の駐車場ということです。一時的に車を停めたい人のため、30分間は無料で利用できます。また、地しんなどに対しても安全に造られています。

地下に駐車場を造って良かったことは、町の景観をこわすことなく、周辺道路の違法駐車が減ったことです。

取材協力 江戸川区土木部保全課事業調整係

ICタグ(上)とカード(下)。サイクルツリーを利用する時に使います。



江戸川区は約15年前にはたくさん放置自転車がありました。そのため、江戸川区は駅から200メートル以内に、地下を含めて約400カ所に駐輪場を造りました。そのうち約10カ所が地下にあって、なぜ地下に造ったかという、地下に造ると地上に新しい建物が建てられるからです。駐輪場を造った結果、2001年(平成13年)には放置自転車が97.1パーセント減少して、放置率が0.66パーセントになりました。放置自転車が減ったことで、車いすの人やベビーカーも通りやすくなりました。地下駐輪場は機械式駐輪場「サイクルツリー」というもので、ICタグやカードを利用して自



取材協力 徳善祐介(とくたけ・ゆうすけさん42才) 江戸川区土木部施設管理課駐輪対策係



取材協力 河野晃章(こうの・あきさん54才) 江戸川区土木部施設管理課駐輪対策係

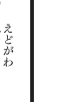


左：駐輪場完成前 右：駐輪場完成後

たくさんさんの駐輪場ができたことにより、江戸川区の放置自転車が激減して江戸川区の道がきれいになりました。

## 減らしてみよう 放置自転車

東京都江戸川区には、6つの駅に地下駐輪場が約10カ所あります。そのおかげで放置自転車が減りました。



取材協力 青柳明(あおやぎ・あきらさん41才) 江戸川区土木部街路橋梁課設計係・主査



取材協力 中倉慎司(なかくら・しんじさん51才) 江戸川区土木部街路橋梁課設計係・係長

転車を出し入れできます。カードを通してから、25秒程度で自分の自転車が出てくるそうです。他にも、レンタサイクルというシステムがあります。これは、駅に着いた人たちが自転車を借りて、区内を走ることができ

## 四季で風景が変わる!しかも安全! 古川親水公園



段差が少なく、安全に配りよっています。四季で変わる景色を楽しめ、川の周りを歩くことができます。

古川親水公園は、日本で初めて造られた親水公園です。

古川親水公園は、生活はいい水などでよごれ、みんなが使えらる公園として改修し、1973年(昭和48年)に完成しました。古川親水公園にはみんなが使いやすい

ような工夫があります。1つ目はスロープを設置したことです。2つ目は段差をなくしたことです。このような工夫があることで、熟年者が安心して、朝のウォーキングや犬の散歩など楽しめるようになりました。川沿いの木々は、春には新緑、秋には紅葉が楽しめます。古川親水公園が長く愛されるよう、こわれた所はすぐ直すなどして、安全に気をつけています。